

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200014		
法人名	有限会社 のぞみ		
事業所名	グループホーム八代のぞみ		
所在地	熊本県八代市千丁町古閑出421-16		
自己評価作成日	平成23年10月7日	評価結果市町村受理日	平成23年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成23年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした田園風景の中にあり、庭園や菜園の色彩を感じたりすることで、のんびりとした生活ができる空間です。管理者をはじめ職員も認知症ケアの理解も高く、利用者ご本人やご家族等と職員との信頼関係もしっかり構築できており、また利用者同士も和気あいあいの雰囲気笑顔にあふれたグループホームです。地域との交流も活発で運営推進会議の活用や地域包括支援センターとの連携を通して、地域の方々と支え合う体制ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議でも市町村や地域の方、御家族の活発な意見で高齢者事前登録制度の活用や避難訓練での近隣の方々、消防団の協力、災害時の非難拠点としての事業所の再認識等地域に密接に関わっていく事業所であることを意識され、地域交流や防災意識を高められています。それと共に職員意識も高まっているようです。利用者それぞれアルバムを作成され御家族との情報共有に努められています。今後も変化していく利用者1人1人の思いや意向を大切にされ集団の中でそれぞれに沿った支援を続けていかれることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の行事(祭り、いきいきサロン、娯楽イベント等)に積極的に参加し、また事業所の行事(運営推進会議、花見、消防訓練等)にも参加、協力していただいている。	「安心と尊厳を守る生活」を理念とされ、その人が守りたい生活を目指し、利用者自身ができることは極力手を出さずに見守りながら支援することを心掛けるようにされ、月1回の職員会議等で振り返るようにされています。	職員1人1人が理念を自覚して日々の実践に望まれることを今後も期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的なあいさつ程度はあるが、奉仕作業等への参加は少ない。いきいきサロンへの参加者も少数に限られている。	地域行事での交流や、月1回公民館で開催される生き生きサロンへの利用者参加支援が行われ、長く入居されている利用者の方が庭を手入れされホームの顔としての存在があり、近所の方との自然な交流ができています。	ホーム敷地に花を植えたり等庭木の手入れをされる利用者の方を支援する事で日常的な交流が生まれているようです。全入居者の方との日常的な交流に広がってくることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話の問合せやホーム見学者に対して、職員の誰もが認知症の人の理解や支援の方法等を相談できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、市職員、民生委員、地域包括支援センター、老人会、家族が毎回参加し、事業所の課題を相談して、解決に協力していただいている。防火避難訓練への参加、協力もその一例。	八代市の高齢者事前登録制度(徘徊SOSネットワーク)の活用を開始したり、災害時の緊急持ち出しについての提案や防災訓練への地域の方の参加など運営推進会議を通して活発な意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは運営推進会議での連携が主だが、区長との連携を通じて、事業所のそのときどきの課題について相談にのっている。	運営推進会議への市町村担当者の参加や認知症サポーター講座を併設デイと合同開催等地域包括支援センターや市町村との連携で行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内外での研修を通じて、全職員が理解を深め、実践している。	身体拘束や虐待防止の研修会に参加し、理解を深めるようにされ、部分的にベッド柵をすすめる際にも身体拘束に関する説明を家族へ行い同意書を取り経過観察記録をとられています。	見守りが監視にならないよう、又、なぜその行動が起きたのか要因分析をされていくとより高い質のケアができるでしょう。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外での研修を通じて、中でも心理的虐待(言葉)がなされないように職員同士が注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けており、制度の活用が必要な場面になれば、事業所としてできる支援をする考えである。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	長期入院を理由にした解約がこの1年で2件あったが、十分な説明を行い、理解と納得が得られていると考える。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議等や家族等の面会時など機会ある度に意見や要望を伺い、それらを運営に反映させている。	家族会が半年に1回行われ、会議の議事録を配布され、面会記録での意見を記入して頂く方法等に取り組まれています。トイレが寒いのはといった家族からの意見があり、感知式ヒーターを設置されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議や毎日の申し送り時に意見や提案を聞いたり、連絡ノートを活用して周知徹底を図り、運営に反映させている。	月1回の職員会議や法人の全体会議や部署長会議で意見を聞く機会を設けられています。又、管理者が日常的に相談を受けたり、希望休ノートを作り職員の協力を得ながら、皆が休みを取りやすい体制となるよう取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	限られた人員のため、休暇を取りやすい環境とまでは言えないが、昨年と比べて有給休暇が取得できやすい勤務状況になっている。給与水準の向上は課題であるが、定期昇給は実施できていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修時の費用等は事業所が負担し、その研修内容は職員会議等で発表したり、相互確認するなど、その実践を通して働きながらのトレーニングにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が主に、地区のグループホーム連絡会の活動を通して、同業者と交流しているが、懇親会が年2回程度で、事業所間の相互訪問などはできていないので、今後進めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人一人がご本人の不安を取り除くために、傾聴することに時間をしっかりかけてきた。そのことでご本人の安心確保につながっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは連絡を密にとり、情報や要望を細かく聞き、とりわけ入居早々にはできるだけホームに来ていただいて話し合った。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって望ましいと判断すれば、主治医の変更や救急搬送など、家族等の理解を得た上で、優先順位を心がけた対応を行ってきた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に日々の掃除等の家事や畑仕事、また一緒に食事することや一緒に配下膳も行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日常のご様子をお伝えし、情報を共有するために連絡を密にとり、話し合いの場をもつことにより、ご家族等と一体となった支援の実現に必要な関係を築いてきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで通っていたパーマ屋さんや小売店等との関係は継続している。	併設のデイサービスを利用されていた方もおられ、デイサービスにいき顔馴染みの知人に会う機会を持たれたり、通年馴染みの神社への参拝等を支援されるなど、これまでの馴染みや新たな生活での馴染み継続支援が行われています。	利用者それぞれに作られているアルバムも馴染みの関係継続に役立つことでしょう。御家族と利用者がアルバムを見て一緒に楽しむ事が出来ると良いですね。欲言えば大きい写真だと見やすいと思いますが。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時の席など気が合わない者同士は離れて席をとったりする配慮をしたり、反対に、個室に他の利用者と訪問したりして利用者同士の関わり合いの機会をもったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してからは数回しか話していないが、必要に応じて相談や支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望を把握し、本人の意向によりお茶やおやつ、そして食事も自室で取っていただくこともある。	入居当初での聞き取りや月1回のモニタリング、状態変化時や定期的なアセスメント、毎日のバイタルサイン測定時の状態観察や聞き取り等で思いや意向を把握するようにされています。	入居当初での思い、年齢を重ねた際の思い等それぞれの思いや暮らし方の希望が変化していくことでしょう。本人の思いがどう変化したか、どう対応したか等、記録に残されていく事も大切です。これからもより一層職員が共有して対応して行かれる事を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	草木の手入れが好きだった方や畑仕事に専心されてきた方にはホームでも引き続きお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察を詳細に行ったり、職員間で情報を共有するなどして、心身及び有する能力の状況また変化を把握するよう努めている。足腰の丈夫な方には掃除や洗濯ものたたみ等の家事をお願いしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回はカンファレンスを行い、関係者の意見を反映したケアの検討を行っている。また、3ヶ月に1回は介護計画の評価を行い、必要に応じてケアの見直しを行っている。	介護支援専門員である管理者が中心となり介護計画が作成されています。担当者による3ヶ月に1回の評価が行われ、毎日の申し送りや月1回のカンファレンスで話し合うようにされています。	利用者の支援は現場の職員です。各職員が介護計画の具体策をたてるとアセスメント力や対応能力のレベルアップになると思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の個別記録を詳細に経過記録として記録したり、申し送りノート等により職員間で情報を共有したりして、介護計画と実施状況を評価し、カンファレンスを通して、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩される方には、職員が一人付き添って対応したり、併設の認知症デイサービスと共催のイベントを催したり、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のいきいきサロンや老人会との交流の機会を持ったり、馴染みの店に通ったりしている。徘徊等で高齢者登録制度に登録し、関係者に協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族等の希望を尊重し、かかりつけ医を選定している。協力医には往診をいただいている。	協力医の往診や、それぞれのかかりつけ医への受診支援が行われ、病院受診用の申し送り帳を作成され、情報共有を図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現状、看護職を確保できていないので、かかりつけ医に相談することが多い。日中に限り、併設デイサービスの看護職の応援を仰ぐこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りを行い、情報交換を密にし、ご家族等とも状況を確認しながら、退院に向けたアプローチを進めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族等とは十分に話し合い、主に医療機関との連携をとって対応していく方針を説明している。	現時点ではターミナル支援は対応困難と入居時に説明されています。医療機関との連携や事業所の体制等を含め今後の取組を検討されているようです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えた対応マニュアル等を整備し、年1回程度訓練を行っている。(例:のどにものが詰まった場合の対応)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議等にて災害時の避難方法や避難場所等を確認。夜間を想定した防火避難訓練には地域の方の参加もいただき実施した。	スプリンクラーを今年度中に設置予定です。夜間を想定し消防団や近隣住民の協力を得て18:30から利用者全員参加の避難訓練が行われています。災害時は事業所が非難場所になることも想定され物品備蓄等も検討されています。	職員が設備の使い方を熟知することも大切と考えられ災害対策に取り組まれています。今後も想定できる全ての災害対策に取り組まれていかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を損ねたり、羞恥心を感じさせるような言葉かけや行為をしないよう努めている。	年1回接遇教育を行い職員1人1人の意識向上に努めるようにされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決して否定はせず、真剣に理由を聞いたり傾聴することにより、思いや希望を引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、希望に添えるよう心掛けているが、どのように過ごしたいか、何をしたいかの問いかけが少ないように思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時には身だしなみに気を配っている。女性には化粧の支援も行うこともある。人前でも下着姿が多い男性利用者には配慮を促す声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員と一緒に摂っている。下膳や洗い物も一緒に行っている。	敷地内の畑で利用者と一緒に育てた旬の野菜や、好きな食材を聞き取り食卓にのぼるようになされたり、行事食やレストランでの食事等、食事を楽しむことができる支援に取り組まれています。	自然豊かな地域です。利用者の方がご存じの自然に実っている食材等も活用されるといいですね。利用者の方の知恵をもっと取り入れるとより楽しめることも考えられます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を確認し、必要な摂取量に向けて、材料や味付け、とろみ等に工夫を施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人の力に応じた方法で口腔ケアを実施している。介助が必要な方は状態に応じた支援をしている。声かけに対して拒否される場合もあり、毎回は必ずしもできていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄経過を記録しを情報を共有することで排泄のタイミングを把握し、スムーズな排泄に誘導している。紙パンツから布パンツへの変更を支援している利用者もいる。	排泄が自立されている方は見守り、紙パンツの方は定期的に誘導することで排泄の自立支援に取り組まれています。又、トイレに感知式ヒーターを設置されトイレをより使いやすいように工夫されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をとり下剤を調整したり、運動への働きかけや食べ物の工夫等、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向にあわせて随時対応している。少ない方でも週3回以上の入浴を支援している。但し、時間帯は概ね午後の夕食前まで、日曜日は入浴を予定していない。	基本的に週3回の入浴を実施するようにされ、希望により毎日入浴や入浴されなかった際は足浴等を支援されています。季節湯や入浴剤、入浴後の保湿クリームを使用するなど入浴を楽しむ支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のための室温調整や明暗の好みに対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用などを確認し、病院受診時にかかりつけ医に相談等を行い、ご本人の状態に合った服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴やこれまでの役割や趣味などを把握し、これまで同様に張り合いや楽しみのある生活の維持を支援している。草木の手入れ、畑仕事、歌、散歩など。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は随時対応している。家族の協力で外出や外泊も随時対応している。事業所の買い物に同行してもらうこともある。	月1回の行事外出や週2回の買い物外出支援、希望時の車椅子での散歩等、その時その時で外出支援が行われています。	外出がお好きな方はよく支援されているようですが、外出が苦手な方もおられるようです。気分転換も含めた支援方法も工夫されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先での支払いや目的に見合った額についての決済等は利用者にお任せしている。また困難な場合にも同行して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望される方法にて交流できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	田園風景が広がる場所にホームがあり、交通量も少なく、音の刺激も少ない。建物の周囲は植栽や菜園を用意して、季節感を感じる機会を多くする工夫をしている。室内の光や温度はカーテンやエアコンで調整して快適性を維持している。	明るいリビングに職員手作りの季節の飾りがあり、室内からは畑の収穫の様子もみることができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳、ソファ、椅子と思い思いに過ごせるように設置している。自然と気の合う利用者同士がコミュニケーションをとっていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団などはご本人が馴染んだものを持参していただいたり、居室内を好みに合わせてレイアウトしていただいたりしている。家族に協力していただいて、ベランダを設置した利用者もある。	居室入り口のノレンやイベント写真を掲示したり、洋服の整理が苦手な方には見守り等利用者それぞれの個性にあった居室作りを心掛けておられます。又、入居当初で夜間一人で寂しいと言われる方には添い寝したり等、居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は極力段差を無くしたものになっており、安全で自力でできることも多い構造にしていることで、ご本人の自立した生活の支援につながっていると思う。		